

左折導流路には
矢印式信号による制御



メリット

- ✓ 直進車線と独立
- ✓ 赤信号分の交通容量低下がない事

交通の円滑化、交通容量の拡大に貢献

デメリット

- ✓ 導流路内に横断歩道が設置されており、自動車と自転車による**出会い頭事故**が多発

交通安全対策上の課題となっており、対策を講じる必要がある。

左折可標示板による制御



信号がなく、いつでも左へ曲がれますという左折導流路と言いますけれども、こういうのが県内には非常に多いのですね。これは岡山の特徴と言えれば特徴なのかなと思っておりまして、私は愛知県にいたときにはあまり見たことがなかったのですけれども、岡山に来たらたくさんあって、ちょっと戸惑った覚えがあります。

赤信号でとまる必要がないので交通の円滑化、たくさんの自動車をさばけますよという意味で効果があります。

ただ、デメリットとしてちょっと自転車との出会い頭事故が多そうだと。その点について我々は研究してみました。

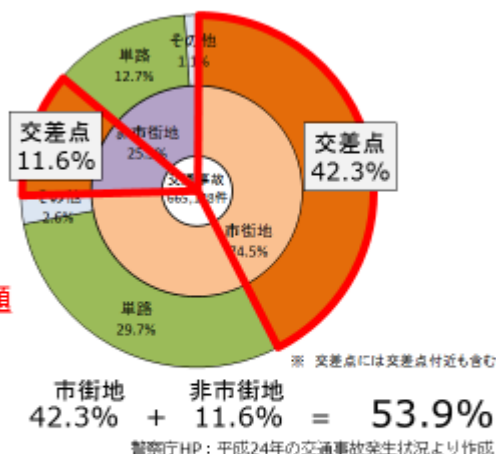
背景



交通事故の半数以上が**交差点及び、その付近**で発生している。

道路交通を安全に処理する為に・・・
交差点をいかに適切に計画・設計、運用していく事が**重要な課題**

岡山県においては・・・



交通容量拡大を目的として、多車線同士が交わる大規模交差点を中心に**信号制御なしの左折導流路**を設置する事例が多くみられる。

岡山市内でも、大供交差点、柳川、青江交差点など9箇所で開催されている。

20141118 交通安全フォーラム

77

交差点というのは事故が起こりやすい場所だということは当然なのですが、左折導流路に目をつけた最初のきっかけが、笠岡市内の交通安全で地元の人たちと安全対策を考えようということでこの道を歩いていたときに、通りがかりの方が自転車で来られて「安全対策をやっているのだったらこれを何とかしてよ」と言われたのです。何なのかなという、この方は向こう側に行くと。これは左折導流路です。左折可。こう行くときに自動車が左折してくると。そうすると、この人からとってみれば背中側から自動車が来る。怖いのでここにミラーをつけてくれと。おっしゃることはわかるのだけれども、本当にこれが危ないのかどうなのか。



©2013 google

岡山県は確かにこういう左折導流路が多いので、これをちょっと検証してみようということをやってみました。

対象にしたのが大供交差点です。

岡山市役所の目の前の交差点です。

非常に交通事故が多かったので既に対策を行った後だったのです。平成 18 年、19 年がワースト 1 で、20 年に大規模に対策を行っています。

背景



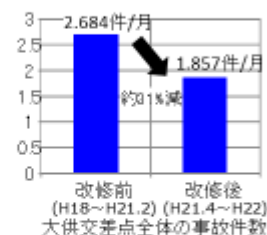
- ✓ 国土交通省中国地方整備局岡山国道事務所は、事故多発を受けて大規模改修工事を平成20年度に実施した。
- ✓ しかし、岡山県警の事故データをもとに改修工事前後の月当たりの事故発生件数を比較した所、わずかに増加している。

平成18,19年度岡山県内交差点交通事故件数
ワースト1 **大供交差点**

平成20年度大規模改修工事実施
(導流路の撤去、曲線半径の縮小化、路面標示改良等)

交差点全体の事故は**減少**したが、
左折導流路については、事故が**微増**している。

さらなる工夫が求められる。



引用：岡山県警交通事故データ(H18-H22)より作成

全体としては事故が大幅に減っています。

ところが、左折導流路のところだけとってみると、実は事故が減っていない、増えている。増えているのは誤差の範囲かもしれないが少なくとも減ってはいない。これは何とかしないといけないなということで工夫をしてみようと思いました。

岡山市役所にカメラを設置させていただいて、学生さんが、ビデオ撮影して人と自動車がどういう挙動をしているのかを何百時間も撮って、それを1秒間に30コマというのを全部分析しながら気の遠くなるような事をやったのです。

調査概要

調査対象地点	大供交差点北西側左折導流路 (岡山県岡山市)
調査期間	2012.11~12 計7日間(平日)
調査時間帯	10:00~15:00
調査方法	ビデオ観測(定点カメラ)
観測台数	13785台
分析対象サンプル	500台



JR岡山駅
大供交差点

JR岡山駅周辺図



カメラ設置位置から見た大供交差点



カメラ設置状況

20141118 交通安全フォーラム

80

こういうように自動車が走って来るのですけれども、曲がり始めといいますか、この区間を特に重視して分析しています。